

## 青森県支部

### 農商工等連携事例にみる地域経済の活性化に関する調査研究

三方が海で囲まれた青森県は、水産物をはじめ農業、林業といった一次産業の割合が高く、それらを原料とした食料品・飲料製造業は、主要産業の一つとなっている。

このような状況で、青森県では、農林水産業の振興策として、消費者が求める安全・安心な農林水産物、加工品を生産し、強力に売り込んでいく販売重視の「攻めの農林水産業」を、平成 16 年度から展開している。

そこで、今回の調査研究事業のテーマは、「農商工等連携事例にみる地域経済の活性化に関する調査研究」と題し、食料自給率 100%以上といわれる青森県内の農商工連携と、6 次産業化の実態を調査して、農商工連携と 6 次産業化のそれぞれ事例を紹介するとともに、農商工連携と 6 次産業化は、本県産業振興を通じた地域おこしにどのような効果、課題があるのかをとりまとめた。

なお、農商工連携は、農林水産業者が中小商工業者との連携により、新規事業の開発を行うことを支援する事業であり、主務省は農林水産省と経済産業省になっている。

また、6 次産業化は、農山漁村が生産（第 1 次産業）だけでなく、食品加工（第 2 次産業）、流通・販売（第 3 次産業）にも主体的・総合的に関わり合うことで高付加価値化・活性化を図る事業で、農業従事者たちも農産物のブランド化、消費者への直接販売、レストラン経営、観光農園などを企画することによって、農村部の地域活性化を目指している。

さらに、今回の調査では、どのような新商品・新サービスがつくられ、どのような評価を得て、地域に貢献しているのかをも調査している。

いずれにしても農商工連携は、農林水産業の活性化・振興に寄与し、地域の商工業にも経済波及効果のある有力な経済政策であることは確かであり、各セクターの協力・連携のもと、社会的ニーズに合致した持続可能な産業への育成と実施が望まれるところである。

本調査が、今後の農商工連携の一助となれば、幸いである。